



# 2020 10月園だより

認定こども園 下関短期大学付属第二幼稚園  
山口県下関市彦島塩浜町2丁目2-21 ☎ 083(266)5821

## おまじない

今年度の運動会は全員靴を履かせます。理由は、9月になっても猛暑の日が続き、裸足だとやけどをするくらい地面が熱かったからです。練習を始めた当初は、走っているうちに靴が脱げ、引き返してしまふ子がいましたが、先日の総練習の時には、靴が脱げる子はだれもいませんでした。

さて、その総練習の日の朝のことです。年長組の子が履いていた真新しい靴を見て、「おっ、いいね。その靴」と声を掛けたら、「しゅんそく！」と教えてくれました。後で調べてみると、子どもたちがトラックのコーナーを左回りで走りやすいように、ソールを左右非対称にするなどして開発された靴だそうです。足の速い子になってほしい、足が速くなりたいと願う親子の心理を見事につかんだ、まさに子ども版の「陸王」とも言えます。しかも「俊足」ではなく「瞬足」というネーミングにしたのも、メーカーのこだわりを感じました。

ところで、私が小学生の頃、誰からともなく言い伝えられていたおまじないがありました。

～「馬の糞を踏んだら足が速くなる。牛の糞を踏んだら足が遅くなる」～

というわけで、運動会を目前に控えたときには、みんなしきりに馬の糞を探しては踏みながら小学校に行き来してしていました。信じられないでしょうが、50年前の田舎（旧油谷町）はそういう時代でした。自動車よりも牛車や馬車の方が普通に往来していたのです。誤って馬糞と間違えて牛糞を思いっきり踏んづけてしまい、慌てて道端の草でこさぎ落としましたこともしばしばありました。

現代版のハイテクな「瞬足」も昭和の田舎の馬糞も、運動会では誰よりも速く走りたいと思う気持ちに何か共通したところがあるような気がします。

3歳未満児にとってみれば、走って競争する意味も楽しさもまだわからない年齢です。かけっこでも、先頭で走ると不安になって後続を待ったり、ゴールの手前で止まったりするものです。ところが、年少組あたりからだんだん勝負を意識するようになり、年長さんになると、多少の緊張感をもつようになります。走ることだけではありません。表現に対しても、幼い頃には楽しくダンスを踊っていたのが、次第に演技の技が高度になり、隊形移動が複雑になってきて、間違えないようにしなければという気持ちが大きくなるのしかかってくる。

楽しいはずの運動会が、苦痛の運動会になってはいけません。では、どうしたらその緊張感を克服できるのでしょうか。まずは練習あるのみです。先日、大相撲で初優勝を果たした正代関。優勝を賭けた千秋楽の一番は、緊張感が見ている者にも明らかに伝わってきました。勝負は防戦一方。でも、何とか持ちこたえて逆転勝利を収めたのは、日々の稽古の積み重ねに他なりません。

緊張感を和らげるもう一つの方法、それはおまじない。

直木賞作家の西加奈子氏の短編小説集「おまじない」の中では、様々なおまじないが登場しますが、どれも簡単でちょっとしたものばかりです。おまじないは、だれが考えてもいいと思います。それを信じるのが大事です。抛り所になるものが見つければ心は落ち着き、自信につながるものです。馬糞もきっとそうだったのでしょね。

(園長 寺本 明生)



中川 季枝子作 「ぐりとぐらのおまじない」